(麻美) サバ？ やり直します｡

⟨人生３周目を生き直す 近藤麻美⟩

(麻美) 応援しよう｡

⟨テレビ局で ドラマを制作しながら２周目で積んだ徳の積み直しに 四苦八苦⟩

(麻美) 彼女に手 出さないでもらえます？

(宮岡) え？

⟨再び徳をゲットした麻美にプロデューサーデビューの チャンスが！⟩

⟨彼女の人生３周目は まだまだ続きます⟩

(麻美) ⟨現在 私の プロデューサーデビュー作“ブラッシュアップライフ”の 準備の真っただ中⟩

(ＡＰ) 番手 決まりました？

(麻美) あともうちょっと｡

難航してますね｡

(麻美) 難航してるね｡ ⟨｢番手｣とはポスターやエンドロールに載せる キャストの順番のこと⟩

⟨これを決める作業が Ｐ業務の中でも最も神経を使う⟩

⟨なぜならば ドラマの番手にはさまざまな しがらみや 忖度があるから⟩

(美佐) それってさ やっぱ 上のほうがいいの？

(麻美) そうそう… 今回で言ったらさ １番手は臼田さんで問題ないじゃん｡ >> うん 主演だからね｡

(麻美) そう だけど 問題なのはこのあたりの人たちなんだよね｡ >> あ～｡

これってさ やっぱりさ 芸歴順じゃダメなんだ？

(麻美) 芸歴順だったら楽なんだけど そうじゃないから厄介なんだよね｡

厄介だね｡

(麻美) この人と この人さ今回 まぁ 出番的には 同じくらいじゃない｡

>> うん そうだね｡

(麻美) そう｡

で この人のほうがキャリアは ちょっと上なんだよね｡

>> そうなんだ｡

(麻美) だから そのへん考慮してこの人を上にはしてるんだけど でもさ この人 今勢いあるでしょ｡ >> あるね｡

(麻美) だから 事務所も はっきりとは言わないけど軽くプレッシャーかけて くるんだよね｡ >> そうなんだ｡

(麻美) あと この人ね｡ >> この人 今 人気あるよね｡

(麻美) 出番的には少ないんだけど 他で主演張ってるからだから 中途半端な位置にすると 若干 気まずいわけよ｡

>> えっ それはどうするの？

(麻美) それは奥の手｡ >> 何？

(麻美)｢(特別出演)｣って付けて特別感を出す｡ >> 出た 特別出演｡

あれってさ そういう意味なんだ｡

(麻美) あとは あれね｢(友情出演)｣ね｡ >> 友情出演もよく見るよね｡

あれを見るたびにさ ｢この人 誰の友達なんだろ？｣とか思ってたの｡

(麻美) 私も｡

この仕事就くまでは そう思ってた｡ >> だよね｡

(麻美) あれでしょ 何かさ 撮影現場にメインキャストの俳優仲間か 何かが たまたま来て｢えっ ちょっと出ちゃう？｣ みたいなノリでさ｡

そうそう… ｢何かごめんね 出てもらって｣みたいなね｡

(麻美)｢いやいや 何々ちゃんには いつもお世話になってるから｣…みたいなね｡

>> 完全にそのイメージだったよね｡

(麻美) そういうイメージだったでしょ｡

でも… 絶対あり得ないじゃん｡ >> まあね｡

ていうかさ この人の番手はどうすんの？

もう めちゃくちゃ大御所じゃん｡

(麻美) この人は トメ｡ >> トメ？

あっ ラスト？

(麻美) そうそう…｡

何かさ 最後にドンって出てきたら ラスボス感あるじゃん｡

>> うんうん… いろいろ工夫してんだね｡

(麻美) そう｡

どんなパズルよりも難しいね これは｡

これはさ 結婚式のさ 披露宴の席を決めるのに近いもんがあるね｡

(麻美) あれも大変らしいね｡ >> ねぇ｡

それが嫌だったからさ 私 披露宴やんなかったもん｡

(麻美) う～ん…｡

ん？ ちょっと待って｡

ごんちゃん 結婚してんの？

>> してるよ｡

(麻美) ウッソだ｡

誰と？ >> 職場の先輩｡

(麻美) いつ？ >> もう結構前よ｡

23の時だから もう６年｡

(麻美) えぇ～！

ちょっと待って… 何で言ってくれないの？

式とかを挙げてないから 言うタイミングが特になくて｡

(麻美) ６年前？ >> うん｡

(麻美) ６年前ってあれだ じゃあ…ちょうど こっちで ごんちゃんと会った時？

>> あ…｡

(麻美) あれ新婚だったってこと？

そうそう…｡

(麻美) 普通 言っちゃわない？ >> そう？

(麻美) 言っちゃわないまでも 何かにじみ出るもんなんじゃないの？

何が？

(麻美) 幸せ…？

えっ 出てなかった？

(麻美)〔この前が “バンドワゴン”〕 >> 〔あっ そうなんだ〕

〔感慨深いよね～〕

(麻美) う～ん…｡

ちょっと こっちには 伝わってこなかったかな｡

>> えぇ？

(麻美) 全然いいんだけど…｡

何かごめんね｡ >> 何かごめんね こっちも｡

(麻美) いや… 何か… おめでとう｡

あ… 何か ありがとう｡

(麻美) ここ… おごるわ｡ >> あっ ありがとう｡

(店員) お客様 こちら チキンカレーでございます｡

>> ２種類 あっ どうもありがとうございます。

２種類頼んじゃってるけど いいんですか？

(麻美) 何種類でもどうぞ。

いくらでも いや ショックを…ショックっていうか びっくりだわ。

>> 本当？ おごっていただこう。

(麻美) できた！

(ＡＰ) 決まりました？

(麻美) 決まった！

(麻美) どう？

(ＡＰ) あ～ なるほど｡

バランス取れてますね｡

(麻美) やった｡

いいね これでね｡ >> いいと思います お疲れさまです｡

📱(着信音)

(麻美) はい もしもし 近藤です｡

はい｡

あっ… あぁ何だ 誰かと思った｡

うんうん 久しぶり｡

そうそう… どうした？

(麻美) ⟨福ちゃんが東京に来た⟩

(福田) 成人式以来？

(麻美) う～ん そうかも｡

９年ぶりだ｡ >> だよね｡

(麻美) いつ こっち来たの？ >> 今日のお昼｡

(麻美) そうなんだ 仕事？

まぁ いや 仕事っていうか ちょっと用事があって｡

(麻美) そうなんだ｡

あっ そうだ 私さ今 現場で ごんちゃんと一緒なんだよね｡

>> ごんちゃん？ あぁ 丸山！

(麻美) そうそう…｡

今 ごんちゃん メイクさんやっててさ｡

６年前かな？ バッタリ 現場で会ってそれから ちょこちょこ 一緒に仕事するようになってさ｡

>> へぇ～ いいね｡

(麻美) うん｡

聞いてよ ごんちゃん 結婚してたんだけど｡

>> えっ そうなの？

(麻美) そう｡

私 さっき知らされたからね｡ >> さっき？

(麻美) さっき ごはん食べてる時に 発覚して｡

>> そうなんだ ふ～ん｡

(麻美) うん｡

そうだ 実は俺 離婚してさ｡

(麻美) あ… ねぇ 聞いたよ しーちゃんから｡ >> そっか｡

まぁ 俺が悪いんだけどね｡

(麻美) それぞれ 事情はあるからね｡

(麻美) で？ どうなの？ 今は｡

｢どうなの？｣って？

(麻美) 何か 新しい子とかいないの？ >> あっ あぁ～｡

あ まぁ いやぁ 実は最近付き合い始めた子がいてさ｡

(麻美) あ～ よかったじゃん｡

相手は？ >> バイトの後輩｡

(麻美) う～ん… 写真とかないの？

>> あるよ｡

(麻美) 見たい 見たい｡

>> この子｡

(麻美) あっ かわいいじゃ～ん｡

あ… この間 お店にいた子かな？

>> そうだよ 会ったんでしょ？

(麻美) そうそう…｡

私のこと不審がってなかった？ >> 不審がってた｡

(麻美) うわ～ だよね ごめんね｡ >> フフ｡

(麻美) ⟨取りあえず 順調に 出会っているようで 一安心⟩

⟨あとは結婚して 子供が生まれれば…⟩

>> あっ そうだ｡

(麻美) ん？

これ 新曲｡

よかったら聴いて｡

(麻美) ありがとう｡

⟨そういえば １周目２周目と…⟩

〔マジで俺 音楽業界 変えてやろうと思っててさ〕

(麻美) ⟨成人式以降 福ちゃんと再会するのは音楽をやめた後だったので音楽をやっている時期の 福ちゃんに会うのは初めてだった⟩

どうなの？ 音楽のほうは｡

今はフリーで地道にやってるよ｡

(麻美) あっ 事務所 辞めたんだ？ >> うん｡

そっちのほうが 自分には合ってるみたい｡

(麻美) そっか｡

フリーのほうが 何かと動きやすいしね｡

(麻美) まぁ それはあるかもね｡

あと今後は俳優業もやっていこうと思って｡

(麻美) 俳優業？

もちろん 音楽は続けながらだけどね｡

(麻美) へぇ～｡ ⟨これは知らなかった⟩

まぁ 何がきっかけになるか 分かんないし実際 両方やってる人もいるしさ俺も いろいろ やってみようかなと思って｡

(麻美) じゃ 今は劇団とか入ってんの？ >> いや そういうのは これからいろいろ受けてみようかなと 思ってて｡

(麻美) ふ～ん｡

そっか｡

そういえば 近藤って 今 何かドラマやってんだっけ？

(麻美) あぁ うん やってる｡

>> プロデューサー？

(麻美) そうだね｡

すごいね どう？ やっぱ大変？

(麻美) 大変だけど でも やりがいはあるよ｡

>> そっか そっか｡

(麻美) うん｡

(麻美) ⟨ん？ 何か嫌な予感⟩

もしあれだったら いつでも 声かけてよ｡

(麻美) 声？

いや何か ほら ちょい役とかでもいいんで ねっ｡

何かあったら｡

(麻美) うん 分かった 連絡する｡

⟨多分 何もない⟩

あっ そうだ これ｡

俺の名刺｡

(麻美) 名刺？

いや ほら 今 俺 フリーだから作っといたほうがいいかなと 思って｡

あと一応 これも渡しておくね｡

(麻美) ふ～ん…｡ >> もし何かあったら ねっ｡

いつでも連絡してよ｡

(麻美) うん 何かあったら連絡するわ｡ >> うん｡

(麻美) ⟨きっと… 何もない⟩

私 じゃ ここで｡

(福田) あ…｡

ごめんね 忙しいところ｡

(麻美) いやいや 平気 平気｡

>> 撮影 頑張って｡

(麻美) ありがとう 福ちゃんもね｡

>> ホント 何かあったらいつでも｡

(麻美) あ うん 何かあったら連絡するわ｡

⟨何もない 絶対に⟩

⟨そんな週末の夜⟩

(夏希) んっ ありがとう｡

(美穂) サンキュー｡

アチチ…｡

(夏希) 熱い｡

(麻美) 全然いいんだけどさ｡

(美穂) ん？ 何？

(麻美) 全然いいんだよ ホントに全然いいのよ｡

だけど 一応言うね｡

(夏希) 何？ 何？

(麻美) 来過ぎじゃね？

(夏希) え そう？

(美穂) この前 来たの いつだっけ？

(麻美) ２週間前だよ｡

(夏希) ２週間も空いてんじゃん｡

(麻美) いや ｢２週間も｣じゃない｡

｢２週間しか｣だよ｡

(美穂) えっ 迷惑？

(麻美) ううん 全然いいのよ いつ来て いただいても全然いいのよ｡

うれしいのよ さすがに 来過ぎじゃね？と思って｡

(夏希) え～ ここ居心地いいんだよね｡

(美穂) あ 分かる｡

うちら実家住まいだからね｡

(夏希) うん｡

(麻美) これはさ もう敷布団 ２つ買ったほうがいいよね｡

(夏希) いいよいいよ 床で寝るから｡

(麻美) 何でよ？

でも私は もうさすがに ベッドで寝るよ｡

(夏希) え～ ３人で床で寝ようよ｡

(麻美) それが意味分かんないんだって｡

(美穂) あれ？ あーちん ウエットティッシュない？

(麻美) ない どうした？

(美穂) 手 拭きたいな～と思って｡

(麻美) まだ食べるでしょ？

(美穂) 食べるんだけどいったんキレイにしたいんだよね｡

(麻美) ティッシュある｡

(美穂) あぁ 普通のだと あんまキレイになんないからな｡

(夏希) 洗ってくれば？

(美穂) それはめんどくさいじゃん｡

どうせ また食べるんだもん｡

(夏希) 何それ｡

(美穂) まぁ いいや｡

(麻美) あっ そうだ 私 今日 福ちゃんに会ったんだ｡

(夏希) えっ！

(美穂) どこで？

(麻美) 局の近くの喫茶店で お茶した｡

(夏希) え～ 何で？

(麻美) 何かね 昼ごろかな 急に連絡来て今 こっちにいるから ちょっとでも会えないかなって｡

(美穂) 福ちゃん 元気だった？

(麻美) うん 元気だったよ｡

(夏希) 久しぶりに 福ちゃん会いたいな｡

(美穂) 成人式以来 会ってないか｡

(夏希) うん｡

(麻美) 知ってる？

(美穂:夏希) ん？

(麻美) 福ちゃんと しーちゃん 離婚しちゃったんだよ｡

(夏希) えっ マジで？

(美穂) 何で？

(麻美) 福ちゃんさ 音楽やってたじゃん｡

(夏希) うん｡

(麻美) で 今も やってんだけどさ｡

何か やっぱり 音楽だけだと食べてくのって なかなか厳しいみたいでさ｡

で しーちゃんも 支えきれなく なっちゃったって感じみたい｡

(美穂) そうなんだ お似合いだったんだけどね｡

(夏希) ねぇ 残念だけど仕方ないね｡

(美穂:麻美) うん｡

(麻美) で 今は 事務所辞めて フリーでやってるんだって｡

(夏希) えっ そうなの？

(麻美) うん でさ最近 俳優業も始めたんだって｡

(夏希) そうなの？

(美穂) あれ？ 福ちゃんってさ お芝居とか興味あったっけ？

(麻美) 分かんない｡

(美穂) 何でまた急に｡

(夏希) あれかな？

福山雅治とか星野 源パターン 狙ってんのかな？

(美穂) そういうこと？

(夏希) だとしたら遅くない？

(美穂) いや 遅いし 言っちゃ悪いけど安易だよ｡

(夏希) うん…｡

(麻美) ん｡

(美穂) わぁ ホントだ｡

(夏希) 名刺とかあるんだ｡

(美穂) 見たい 見たい 見たい｡

(麻美) フリーだから作ったんだって｡

(夏希:美穂) ふ～ん｡

(美穂) あっ それで あーちんに 売り込みに来たってこと？

(麻美) どうだろう？

(夏希) 絶対そうだ｡

ドラマやってるからだ｡

(麻美) でも本人は別の用事で来たとは 言ってたけどね｡

(夏希) いやいや…｡

絶対あーちんに会いに来たんだよ｡

(美穂) そうだよね｡

幼なじみがプロデューサーなんて こんなチャンスないもんね｡

(夏希) で 何て言われたの？

(麻美) 何かあったら声かけてって｡

(夏希) 何？ 何かあったらって｡

(美穂) 何もないでしょ？

(麻美) ちょい役でもいいから何かあったら連絡してって｡

(夏希) ん？ どういうこと？

(美穂) ちょい役でもいいからってさちょい役でも出るのって 大変でしょ｡

(麻美) まぁ そうだね｡

(美穂) まださ 何か オーディション あったら声かけて…とかだったら分かるけどさあーちんの力で出ようと してるのは ちょっと甘いよ｡

(夏希) 福ちゃんって 昔から 変にスカしてるとこあるよね｡

(麻美) でも同級生だしさ 福ちゃんって クラスで人気者だったじゃない｡

だから プライドもあったんだと思うよ｡

(夏希) そりゃそうかもしれないけど今さらプライドとか 言ってられなくない？

(美穂) そうだよね あーちん 言ってやればよかったのに｡

(麻美) いや 福ちゃんは福ちゃんなりに 必死なんだと思うよ｡

(夏希) いや そりゃ 必死は必死だろうけどさ｡

(麻美) いや だってさ…｡

やっぱさ 私に売り込みに来るとかもホントは したくなかったと 思うんだよね｡

(夏希) そうなのかな？

(麻美) そりゃそうだよ｡

だって やっぱり 言いにくそうにはしてたもん｡

(美穂) そうだよね ホントだったら みさごんみたいにさ自然な形で あーちんと現場で 会いたかったはずだもんね｡

(麻美) そうだよね｡

(夏希) そっか｡

いろいろと葛藤もあったのかな？

(麻美) うん…｡

多分 恥を忍んで 会いに来たと思うんだよね｡

(美穂) 何か そう考えると切ないね｡

(夏希) 切ない｡

(麻美) うん 私も何かさ何とも言えない気持ちに なっちゃったんだよね｡

(美穂) あ 分かる 何かこう 胸がギュ～っとなるね｡

(夏希) まぁ 陰ながら応援するしかないね｡

(美穂) うん そうしよう ＣＤ買おう｡

(夏希) そうだね｡

(麻美) あっ ＣＤもらったよ｡

(美穂:夏希) えっ！

(麻美) 聴く？

(美穂) 聴きたい｡

(夏希) 初めて聴くよね｡

(美穂) うん そうだね｡

前にさ カラオケで“粉雪”か何か 歌ってんの聴いたよね｡

(夏希) あぁ 歌ってたね｡

(美穂) うん｡

(夏希) えっ “粉雪”だっけ？

(麻美) ORANGE RANGEだね｡

“粉雪”は加藤だね｡

(夏希) そうだっけ？

(美穂) よく覚えてんね｡

(夏希) 何歌ってたんだろ？

ORANGE RANGEって 言ってた｡

(美穂) ORANGE RANGEの… の何？

(麻美)“イケナイ太陽”｡

(美穂) そうだっけ？

(麻美) あと マッキ－｡

(美穂) 歌ってた？

(夏希) 甘いのと しょっぱいの｡

(美穂) これは交互にいきたくなる｡

うまい｡

(夏希) うまい｡

(ﾌﾟﾚｰﾔｰ)♪～ アイラブユーが世界を救う

(ﾌﾟﾚｰﾔｰ)♪～

(ﾌﾟﾚｰﾔｰ)♪～ 神様は

(ﾌﾟﾚｰﾔｰ)♪～ 君を知らない

(ﾌﾟﾚｰﾔｰ)♪～ 運命は

(ﾌﾟﾚｰﾔｰ)♪～ 道化師にあげた

(ﾌﾟﾚｰﾔｰ)♪～ くそったれと

(ﾌﾟﾚｰﾔｰ)♪～ 叫ぶ背中は

(ﾌﾟﾚｰﾔｰ)♪～ 鼻垂れ小僧の

(美穂) ねぇ｡

(ﾌﾟﾚｰﾔｰ)♪～ この流れで絶対言うことじゃ ないと思うんだけど(ﾌﾟﾚｰﾔｰ)♪～ 言っていい？

(麻美) どうぞ｡

(ﾌﾟﾚｰﾔｰ)♪～

(美穂) ダサくね？

(ﾌﾟﾚｰﾔｰ)♪～

(夏希) ダサい…｡

(ﾌﾟﾚｰﾔｰ)♪～

(ﾌﾟﾚｰﾔｰ)♪～

(美穂) いや…｡

(ﾌﾟﾚｰﾔｰ)♪～ いや ここはさ あの(ﾌﾟﾚｰﾔｰ)♪～ 福ちゃんの歌 聴いて ジ～ンとしたかったのにさ(ﾌﾟﾚｰﾔｰ)♪～ こんなにダサいと無理だね｡

(夏希) うん 下手でもいいから(ﾌﾟﾚｰﾔｰ)♪～ もうちょっとダサくない感じに してほしかったよね｡

(ﾌﾟﾚｰﾔｰ)♪～

(ﾌﾟﾚｰﾔｰ)♪～

(麻美) 止める？

(美穂) お願い｡

(ﾌﾟﾚｰﾔｰ)♪～

(麻美) あっ！ そうだ｡

ごんちゃん 結婚してたんだよ｡

(美穂) あっ そうなの？

(麻美) ６年前に 職場の先輩と｡

(夏希) へぇ～｡

(麻美) すごくない？

(夏希) うん すごい｡

(麻美) 私 仕事で しょっちゅう 一緒になってるのに今日 知ったからね｡

(夏希) あ そうなんだ｡

(麻美) そう｡

(麻美) あれ？ 私的には 結構な 衝撃的な事実だったんだけど｡

(夏希) うん｡

(美穂) うん｡

(麻美) そうでもない？

(夏希) あ いや… う～ん 衝撃は衝撃なんだけど｡

ねぇ｡

(美穂) うん まぁ…｡

みさごんには ちょっと申し訳ないんだけどちょっとね 福ちゃんの話の後だと 薄く感じちゃうかな｡

(夏希) うん 福ちゃんの話が濃かったからね｡

(麻美) そっか… こっち 先にすればよかったね｡

(夏希) うん そうだね そしたら もうちょっとマシな反応できたと思う｡

(麻美) どうしよう…｡

もう１回 ＣＤかけようか｡

(美穂) やめて｡

(夏希) 二度とかけないで｡

(美穂) これ何？

(夏希) まっか…｡

(麻美) ⟨テレビ局に就職して８年⟩

⟨私の プロデューサーデビュー作“ブラッシュアップライフ”が ついにクランクインした⟩

📱(カメラのシャッター音)

(臼田) おはようございます｡

(麻美) おはようございます！

⟨主演は 臼田あさ美さん⟩

ついに…｡

(臼田) この日が来たわ｡

(麻美) ⟨あの時 交わした約束が…⟩

〔いつか私 プロデューサーやる時 ぜひ 臼田さん主演で出てください〕 >> 〔そんな もちろん もちろん〕

(麻美) ⟨６年越しで実現した ただ…⟩

｢私がプロデューサーやる時は 主演は臼田さんで｣って言ったなって｡ >> あ～！

言ってたね～！

(麻美) ね～！

そう… ぶわ～って鳥肌｡

⟨多分… 覚えていない⟩

>> 始まるわ～｡

(麻美) うん｡

⟨ちなみに物語は 何度も 人生をやり直す女性のお話で私が企画した私の人生を モチーフにしたドラマ⟩

(臼田) 川端さん あなた ウソをついていますね？

(川端) ウソ？ 私が？

フッ 何を根拠にそんなことを｡

実は私… この人生 ２周目なんです｡

(川端) は？

(臼田) １周目であなたは自殺と見せかけて 冴島さんを殺害し罪をなすりつけて うまく逃げ切りましたけど今回は そうはいきませんよ｡

(川端) 何を訳の分からないことを｡

冴島さんと ここで会うこともこのビルから突き落とすことも 知っていたので…｡

(監督) キュー｡

(臼田) マットを仕込んでおきました｡

(冴島) 川端さん｡

あんた やってくれたな？

(川端) 冴島！

(臼田) もう言い逃れは できませんよ～ 川端さん｡

(麻美) ⟨ただ 原形はとどめていない⟩

(銃声)

うっ！

やっぱり… あんたが黒幕｡

あっ…｡

(銃声)

痛った～｡

やっぱ 防弾チョッキ着てても 痛いのは痛いんだね｡

痛かった｡

(黒幕) どういうことだ…？

１周目｡

あんたに ここで殺されたから 準備しておいたの｡

(黒幕) 貴様…｡

(黒幕) 何者だ？

私？

私はね この世をブラッシュアップする２周目の女｡

(麻美) ⟨とどめていないけど 撮影は順調⟩

(監督) はい カット ＯＫ！

いいじゃん｡

(麻美) ⟨順調だけど とどめてはいない⟩

⟨そんな とどめてはいないけど 順調だった撮影に不測の事態が起きた⟩ 📱(着信音)

(麻美) 前野さんのマネジャーさんだ｡ 📱(着信音)

(麻美) はい もしもし｡

はい お疲れさまです はい｡

はいはい｡

あぁ えっ！

あ～ なるほど｡

はい はい はい 失礼します｡

ヤバい｡

(ＡＰ) トラブルですか？

(麻美) 前野さんさ 今 北海道にいるんだけど今日の夜の便で 帰ってくる予定だったのが飛行機が 欠航になっちゃったらしくてさ｡

え？ 前野さん あした 朝イチからですよね？

(麻美) 朝イチから｡ >> え～ どうするんですか？

(麻美) 取りあえず 今 スケジューラーさんに別日 ずらせないか 聞いてみるけども…｡

あっ もしもし 今 大丈夫ですか？

どんなに早くても あしたの 昼ごろにはなっちゃうみたいで｡

別日とかは厳し… そうですよね～｡

そうなると 初回放送 間に合わない… そりゃそうだ｡

う～ん…｡

はい 分かりました｡

ちょっと監督に確認してみます｡

臼田さんはどうしても あした 昼までには出なきゃいけなくて｡

そうなんです そうなんです｡

で 監督 ホントに 申し訳ないんですけどあの 例えば あした 臼田さん方向だけ撮っちゃってで 後から 前野さん方向撮る っていうのは可能ですか？

うんうん… で 今 監督に確認したんだけど｡

臼田さんのワンショットは 問題ないとしてで あとは前野さんの肩越しと あと２人のルーズショット｡

そう… 乗り越えられれば 吹き替えで｡

うん と思っているのだが…｡

ごめん ホントに急で 申し訳ないんだけど背格好同じエキストラさん 用意できる？

ん～｡

(ＡＰ) 厳しいですね｡

(麻美) 骨格が違うもんな｡

(ＡＰ) 前日のこの時間からだと だいぶ限られてきますよね｡

年齢が…｡

(麻美) 1960年生まれなんだよ｡

(麻美) ちなみになんだけどさ｡ >> はい｡

(麻美) この人 どう思う？

あぁ～ いいんじゃないですか？

身長も同じぐらいだし｡

(麻美) だよね｡ >> ていうか 今から言ってｽｹｼﾞｭｰﾙ押さえれるんすか？

(麻美) うん 多分 ガラ空きだと思う｡

(麻美) ⟨こうして 絶対に何もないと 思っていたあの男が救世主となって現れた⟩

ごめんね 朝早くから｡

>> うんうん 大丈夫｡

(麻美) ありがとね～｡

今日 何時に起きたの？

いや バイト終わりで 家でシャワーだけ浴びてそのまま来たから｡

(麻美) そうなんだ ごめんね ホントに｡

全然平気｡

(美佐) そういえばさ 福ちゃんさ 音楽のほうはどうなの？

あ やってるよ あぁ そうだ｡

これ 新曲 よかったら聴いて｡ >> あ～ ありがとう｡

今までとは ちょっと 方向性が違うんだけどさ｡

(麻美) ごめん それ 後ででもいい？

(福田) あっ あぁ…｡ >> ごめんね｡

じゃあ 福田さんも 麻美ちゃんの同級生ってこと？

(麻美) 小･中の同級生だね｡ >> え？ だってメイクの美佐ちゃんもじゃない？

(麻美) そうそう ３人一緒なの｡

>> えっ すごくない？ 同窓会じゃん｡

(ｽﾀｯﾌ) お待たせしました｡

(麻美) あ～ うんうん｡

監督に送るんで 写真撮ってもらっていいですか？

(助監督) すいません じゃあ…｡

(麻美) 撮ったら すぐ送ってください｡

あっ 後ろでいいです｡ >> 後ろか｡

(助監督) 撮りま～す｡ >> はい｡

(麻美) もうちょい上からの 寄りめも お願いします｡

>> 上から頂きます｡

(麻美) あと横も｡

(助監督) はい｡ 📱(カメラのシャッター音)

(助監督) 監督もカメラマンも ＯＫ出たんで｡

はい 入られますよ～！

(麻美) お願いします｡

(助監督) カメラ回してください｡

(麻美) ここ ここが…｡

(美佐) そうっすね｡

はい 本番｡

よ～い はい！

(臼田) 冴島さん｡

もしかして あなたもタイムリーパー？

ハァ｡

全ての点と点がつながった｡

(臼田) あなたも 同じ穴のムジナってことね｡

はい カット ＯＫ！

(麻美) ⟨救世主は肩越しと ルーズショットの吹き替え役を完璧に こなしてくれた⟩

ありがとうございました｡

(ｽﾀｯﾌ) お疲れさまでした｡ >> お疲れさまでした｡

(麻美) お疲れさまです ホントに 福ちゃん 今日はありがとね｡

いえいえ また呼んで｡

(麻美) 次は ちゃんとした役で 呼ばせてもらうよ｡

>> ホント？ 期待してるよ？

(麻美) うん｡

ちょっとさ タクシー呼んでくるから待ってて｡

分かった｡

(福田) お疲れさまです｡

(麻美) はい １台で お願いします｡

正面玄関です は～い お願いします｡

>> よかったら聴いてください｡

(臼田) あっ え～｡

福田さん 音楽もやってるんですか？

そっちのほうが 本業なんですけどね｡ >> へぇ～｡

あっ 一応 これ 名刺｡

(麻美) ⟨救世主なので目をつぶる⟩

⟨翌日⟩

⟨｢友情出演｣…⟩

何かありました？

(麻美) ⟨救世主なので目をつぶる⟩

⟨フォロワー87人だし⟩

⟨そんな数々の苦労を乗り越えついに迎えた 第１話 放送の日⟩

⟨リアルタイム視聴するために 急いで帰る⟩

⟨ちなみに今日は…⟩

ポストにさ 鍵入ってるから 先 入ってて｡

⟨放送を一緒に見るために ２人も来ている⟩

⟨自分が初めて企画し プロデュースしたドラマを幼なじみとお菓子を食べながら 見るという至福⟩

📱 死んだ？

📱 私はね この世をブラッシュアップする２周目の女｡

📱 全ての点と点がつながった｡

📱 あなたも 私と同じ穴のムジナってことね｡

📱 何だ ２周目って！ おい！ ３周目もあんのか!?

(車のクラクション) 📱 “ブラッシュアップライフ”今夜10時スタート｡

(スキール音)

(荒い息遣い)

(麻美) ハァ ハァ ハァ…！

あの！ 私 29歳なんですけど おかしくないですか？

(受付係) ではですね こちらにお名前と生年月日を ご記入ください｡

ありがとうございます あっ すいません｡

少々お待ちください｡

♪～

あっ え～ 近藤麻美様ですね？

29年間 お疲れさまでした｡

(麻美)｢お疲れさまでした｣じゃなくて｡

前回 私が死にやすいのは 30代だって言いましたよね？

>> あぁ 言いましたね｡

(麻美) 私 まだ29歳なんですよ｡

おかしくないですか？ >> あっ あの もちろんお亡くなりになりやすいのは 30代なんですけどもそれは あくまでも確率の話なので 当然 それ以前にお亡くなりになるということも あるんですね｡

(麻美) そうなんですね｡ >> よろしいですか？

では 新しい生命に ご案内いたしますね｡

(麻美) あの ここ テレビないですかね？

>> テレビ？

(麻美) はい｡

私が 初めて 企画から考えたドラマが今日 放送される日 だったんですよ｡

>> そうなんですね｡

(麻美) そうなんですよ！

何本も企画書出して やっと通って 何か月も前から打ち合わせしてみんなで一生懸命 朝から晩まで撮影して何だったら 福ちゃんにまで 出てもらって！

予告編もすっごい いいの出来て やっと今 これからホントに これから放送だったんですよ！

>> そうなんですね｡

(麻美) そうなんですよ｡

初回だけでも見れないですかね？ >> 見れないですね｡

よろしいですか？

(麻美) そんなバッサリいきますか？

バッサリ？

(麻美) 見れないのは仕方ないとしても死んだ人の願いを そんなバッサリいきますか？

あ… すいません｡

そうですよね｡

初めて手がけたドラマですもんね｡

(麻美) そうなんですよ｡

ちなみに 時間的にはどれくらいですか？

(麻美) １時間です｡ >> あっ １時間なんですね｡

(麻美) ホント それだけ見れたら もう満足なんで｡

初回だけでも見れないですかね？ >> 見れないですね｡

(麻美) ダメなんだ｡ >> すいません｡

ちなみに 何チャンですか？

(麻美) ４チャンです｡

>> あっ ４チャンなんですか｡

(麻美) はい｡ >> 主演どなたですか？

(麻美) 臼田あさ美さんです｡ >> あっ 臼田あさ美さん｡

(麻美) 冒頭の ホント 頭10分だけでもいいんで見れないですかね？ >> 見れないですね｡

(麻美) 分かりました…｡

すいません｡

ちなみに 全何話ですか？

(麻美) 無理なんですよね？ >> 無理ですね｡

(麻美) さっきから何で ちょいちょい あともう一押しみたいな感じで出してくるんですか？ >> あ 何か バッサリいくなって…｡

(麻美) もういいですよ だって どうせ無理なんだから｡

よろしいですか？

では 新しい生命に ご案内いたしますね｡

(麻美) 次は何ですか？

ちょっと確認しますね｡

え～ 近藤麻美様は… あっ これだ｡

北海道のムラサキウニですね｡

(麻美) ムラサキウニ？ >> はい｡

(麻美) ウニ…？

こんなに頑張ったのに？

そうですね｡

(麻美) こんなに頑張ってムラサキウニ？

こちらですね｡

(麻美) 写真 これなんですね｡

>> これ？

(麻美) 食材としての写真ですよね？

一応 これが一番分かりやすいかな と思いまして｡

(麻美) 分かりやすいですけど…｡ >> はい｡

(麻美) 死んでるんじゃないですか？ これ｡

一応 これ 生きたままの 新鮮なウニなんですね｡

(麻美)｢生きたまま｣とか ｢新鮮｣とかっていうのも食材としての言葉ですよね？ >> あぁ すいません｡

(麻美) ウニはキツい｡

ウニはキツいな…｡

ウニはキツいな｡

もう１回 やり直せますか？ >> できますよ｡

(麻美) まだ いけるんですね？ >> はい｡

(麻美) そっか… やり直します｡ >> かしこまりました｡

ではですね こちら右側真っすぐ 進んでいただきますと扉がございますので そちらから 今世にお入りください｡

いってらっしゃいませ｡

(麻美) これ途中からとかって 無理ですよね？ >> はい？

(麻美) 途中から！ >> 途中から？

(麻美) さすがに０歳とかからは ちょっとキツいんで何だろう あの… セーブしたとこからみたいな｡

>> できないですね｡

(麻美) はい｡

いってらっしゃいませ｡

(麻美) ハァ…｡

(鼓動)

(麻美 産声)

(鼓動)

(久美子) 麻美ちゃん かわいいね｡

(麻美) ⟨こうして 人生４周目がスタートした⟩

(麻美) ⟨まさか こんなにやり直すとは 思わなかった⟩

⟨いいかげん 次こそは 人間に生まれ変わりたい⟩

⟨ただ 今までのような生き方では きっと無理だと思う⟩

(監督)〔確かに不倫を阻止する ぐらいじゃ弱いですよね〕

(脚本家)〔タイムリープする意味 ないですもんね〕

(麻美)〔なるほど〕

⟨もっと莫大な徳を 積む必要がある⟩

⟨とはいえ この時期にできることは育つことのみ⟩

歩いた 歩いた！

(麻美) ⟨一応 手がかからないように 努力はした⟩

⟨そして ４度目の保育園⟩

⟨もう懐かしんでいる暇はない⟩

ねぇねぇ｡

公園のツツジは 公共のものだから 勝手に蜜を吸ったりすると窃盗もしくは器物損壊罪に なっちゃうんだよ｡

まぁ ２人は未成年だし 知らなかったから仕方ないと思うけど 次から控えようね｡

♪～ “ムーンライト伝説”

(洋子) ストップ ストップ！ 早苗ちゃん 早苗ちゃん！

これ みんなのおもちゃだから みんなで遊ぼう｡

(早苗) やだ 早苗が遊ぶの！

(洋子) 早苗ちゃん 早苗ちゃん！

順番こ 順番こ… おいで 順番こ 順番こ｡

順番こだからね 順番こ｡

(麻美) 早苗ちゃんって もう４歳だよね？

今は ギリ泣けば 許される年齢だけどこれから だんだん通用しなくなるからさ小学校に入って困らないようにそろそろ我慢することを 練習していこうね｡

ほら このおもちゃを 他の子に貸してあげることが成長の第一歩だと思ってさ 踏み出してみようよ｡

♪～

♪～

あっ 早苗ちゃん ありがとう！

(麻美) ⟨もちろん 今回も 洋子先生の不倫を阻止しなければいけない⟩

⟨ただ… また あれをやるのは キツいので今回は 別のアプローチを 試みることにした⟩

(麻美) 先生｡

(洋子) どうしたの？ 麻美ちゃん｡

(麻美) 少しお話ししてもいい？ >> うん 何？

(麻美) 私ね 先生のこと大好きだから 幸せになってほしいんだよね｡

ありがとう 先生も 麻美ちゃんのこと大好きだし幸せになってほしいなって 思ってるよ｡

(麻美) ホント？ >> うん ホントだよ｡

(麻美) じゃあさ 約束してくれる？ >> うん 何を？

(麻美) 不倫しないって｡ >> え？

どうしたの？ 麻美ちゃん どこでそんな言葉覚えたのかな？

(麻美) 不倫ってさ 結婚と違って ずっと続けるわけじゃないし最後は絶対に誰かが 不幸になって終わるでしょ？

うん… そうだけど 先生はそんなことしないよ｡

どうしたの？ 急に｡

(麻美) 実はね 前に私の知り合いの 保育士のお姉さんがね園児のお父さんと 不倫関係になっちゃったの｡

そうなんだ…｡

(麻美) そのせいで 相手の家族はバラバラになってお姉さんも保育園を 辞めなきゃいけなくなって結局みんなが 不幸になっちゃったの｡

先生には そんなふうに なってほしくなくて…｡

うん 大丈夫 先生は不倫なんかしないよ｡

(麻美) ホント？ >> うん ホント｡

(麻美) 今 持ってる紙って玲奈ちゃんのパパの ベル番だよね？

>> これ？

(麻美) 確認してみて｡

(麻美) 私 誰にも 不幸になってほしくないから先生 連絡しないでね｡

うん… しないよ しないね 絶対｡

(麻美) 約束してくれる？ >> うん 約束する｡

じゃ これ ほら 破っちゃうね ほら｡

破って捨てちゃおっか ねっ ほら｡

ほら はい 捨てました｡

(麻美) ありがとう｡

ごめんね 何か心配かけちゃって｡

(麻美) ううん 先生のこと信じてるね｡

うん 分かった｡

(麻美) ⟨子供の直談判は さすがに効いたようで⟩

(玲奈の父) 洋子先生｡ >> あっ おかえりなさい｡

玲奈ちゃん パパ来たよ｡

(玲奈) は～い！

どうも～｡

じゃあね またあしたねバイバイ！

(玲奈) バイバイ！

こんにちは｡ >> おかえりなさい｡

こうたろう君 来たよ パパ｡

(麻美) ⟨洋子先生は 玲奈パパとこれ以上 距離を縮めることはなく玲奈ちゃんも 引っ越さずに済んだ⟩

⟨最初から こうすればよかった⟩

いってきます｡

⟨そして ４度目の小学生⟩

(麻美) おはようございます｡

あら 麻美ちゃん おはよう｡

(麻美) ⟨この段階からできることは 全てやる⟩

(児童たち) ５×１＝５

(麻美) ⟨勉強も前回までは 大人の頭脳にあぐらをかき出された宿題を こなすくらいだったけど今回は この段階から将来を見据え今まで遊んで過ごしていた時間も 全て勉強に費やした⟩

⟨しかし その代償もあった⟩

(夏希) 麻美ちゃん バイバイ｡

(麻美) バイバイ｡

(美穂) バイバイ｡

行こう｡

(夏希) 行こう 行こう｡

〔今日 ドラマクラブやる？〕

(麻美)〔あっ そうだね〕

(美穂)〔やろう やろう〕

(夏希)〔じゃあ帰ったら 小松商店 集合ね〕

(麻美:美穂)〔ＯＫ！〕

(夏希) 今日 ドラマクラブやる？

(麻美) ⟨今まで当たり前のように 一緒だったなっちや みーぽんとも 距離ができてしまった⟩

(麻美) 図書館 行ってくる｡

(久美子) えっ ホント？

じゃあ 帰りに 牛乳買ってきて｡

(麻美) うん 分かった｡

(夏希) フェルトシール｡

(美穂) えっ 持ってんの？

(麻美)〔みーぽんのそのシール かわいいね〕

(夏希)〔ホントだ〕

(麻美) ねぇねぇ｡

(夏希) 麻美ちゃん｡

(麻美) シール交換？

(美穂) そう！

(麻美) 私も混ぜて｡

(美穂) 別にいいよね？

(夏希) うん いいよ｡

(麻美) ありがとう！ ⟨入れてくれた…⟩

⟨ヤバい… 泣きそう⟩

みーぽんのそのシールかわいいね｡

(夏希) ホントだ｡

ハムスターのタイルシールだ｡

(美穂) かわいいよね｡

この間 ジャスコに行った時 買ったんだよね｡

(麻美) え～ いいなぁ｡

(美穂) たくさんあるから１枚あげるよ｡

(麻美) いいの？

(美穂) うん いいよ｡

(麻美) え～ ありがとう｡

うわ かわいい｡

(夏希) 私も これ あげる｡

(麻美) えっ ホントに？ ありがとう｡

⟨いきなり レアシール２枚 もらった⟩

私のも あげるね｡

(美穂) えっ ホント？

(麻美) 好きなの選んで｡

(美穂) う～ん…｡

じゃあ｡

私 これ｡

(夏希) 私は これがいい｡

(麻美) えっ これでいいの？

(美穂) うん｡

(夏希) うん｡

(麻美) ⟨２人が選んだのは私が もらったのとは 全く釣り合いの取れない普通のシール⟩

(美穂) ありがとう｡

(麻美) はい｡

(夏希) ありがとう｡

(麻美) ⟨気を使われている⟩

⟨交渉が醍醐味の シール交換なのに接待交換させてしまった⟩

(ｽﾋﾟｰｶｰ)>> ♪～ “夕焼け小焼け”

(夏希) 算数のテストどうだった？

(美穂) 私 全然ダメだった｡

(ｽﾋﾟｰｶｰ)>> ♪～ “夕焼け小焼け”

(夏希) 私も無理だった 麻美ちゃんは？

(麻美) まぁまぁ できた｡

(ｽﾋﾟｰｶｰ)♪～

(夏希) え～ 麻美ちゃんって 塾とか通ってんの？

(ｽﾋﾟｰｶｰ)♪～

(麻美) ううん 行ってないよ｡

(美穂) え～ そうなの？

(ｽﾋﾟｰｶｰ)♪～ 家庭教師は？

(麻美) ついてないよ｡

(ｽﾋﾟｰｶｰ)♪～

(夏希:美穂) え～！

(ｽﾋﾟｰｶｰ)♪～

(夏希) 何でそんなに頭いいの？

(麻美) どうしてだろう｡

(ｽﾋﾟｰｶｰ)♪～

(美穂) 元々の頭がいいんだろうね｡

(麻美) そんなことないよ｡

(ｽﾋﾟｰｶｰ)♪～

(美穂) 私たち こっちだから｡

(麻美) あっ そうだったね｡

(ｽﾋﾟｰｶｰ)♪～

(夏希) また あしたね｡

(麻美) うん｡

(ｽﾋﾟｰｶｰ)♪～

(美穂) バイバイ！

(麻美) バイバイ！

(ｽﾋﾟｰｶｰ)♪～

(美穂) 今日のごはん 何かな？

(夏希) 私 麺系食べたい｡

(ｽﾋﾟｰｶｰ)♪～

(美穂) 麺系？ 何それ｡

(夏希) 何か うどんとか…｡

(ｽﾋﾟｰｶｰ)♪～

(美穂) あ～ 麺類のことね！

(夏希) そうそう…！

(ｽﾋﾟｰｶｰ)♪～

(ｽﾋﾟｰｶｰ)♪～

(麻美) ⟨５時のチャイムが(ｽﾋﾟｰｶｰ)♪～ 何だか いつもより染みた⟩

(ｽﾋﾟｰｶｰ)♪～